



けんすけタイムズ

Rensuke Times

LINE
公式アカウント

愛知 13 区

碧南・刈谷・安城・知立・高浜

前衆議院議員

タイトル

熟議なき国会、ブレーキなき政権

おおにし健介

2 月の衆院選で自民党が歴史的勝利を収め、召集された特別国会は延長を含めた 158 日間の会期を終え閉会しました。私にとっては 17 年ぶりの外から見た国会でした。

昨年までの与野党が拮抗する「熟議」の国会は様変わりしました。それは、衆議院予算委員会集中審議の総理出席に顕著に表れています。石破政権の 2025 年 8 回 41 時間だったのが、高市政権では閉会後を合わせても 4 回 17 時間と半分です。また、秘書の陳述書の提出をもって答弁とさせてほしいとの国会対応は国会軽視の極みです。

連立から公明党が抜け新たに維新を加えた政権は、ブレーキを失い、数の力で、民意とはかけ離れた政策を次々と強行しました。その主なものを振り返り、改めて問題点を指摘したいと思います。

皇室典範改正

1947 年の施行以来の実質的な内容を伴う改正にもかかわらず、衆院での審議時間は、たったの 3 時間 35 分でした。愛子様が天皇になれないのに、今上天皇と 36 ～ 38 親等も離れた旧 11 宮家からの養子の男子に皇位継承権があるというのは、一般の国民の意識とは大きく乖離しています。

両院の本会議での全会一致とは程遠い採決結果も「(象徴の) 地位は、主権の存する日本国民の総意に基く」という憲法の規定に反しています。

「国民の皆さんの理解が得られるものとなることを望んでおります」との天皇陛下のご懸念を重く受けとめるべきです。

国旗損壊罪

参議院の参考人質疑では、中央大学法学部の橋本教授が「近代国家のイロハのイとも言える罪刑法定主義を全く満たしていない」と指摘しました。

また、神戸大学大学院の木下教授は、法案が政治的言論をも規制対象とすることなどから憲法違反にあたると指摘しました。

さらに、他人所有の国旗の損壊は器物損壊罪で対応可能であり、立法事実がありません。

保守の立場からも「国旗への敬愛は刑罰で強制すべきものではない」との反対の意見があります。

【前衆議院議員 おおにし健介事務所】

〒446-0074 安城市井杭山町高見 8-7 2F

TEL: 0566-70-7122 FAX: 0566-74-2008

メール office@oniken-web.jp

副首都法案

首都機能のバックアップは必要だと思います。しかし、副首都法案は、中身も生煮えで、「大阪ありき」で大阪に巨額の国費を引っぱりたいという我田引水が透けて見える法案です。

そもそも大阪の人も東京の「代打」、「副」というのを本当に望んでいるのでしょうか。

要は、過去に 2 度否決された大阪都構想の住民投票を実施するための法案ではないのか。野党は「住民投票と地方選が重複しないよう最大限調整する」という附帯決議を条件に採決に応じましたが、法案成立直後、日本維新の会の吉村代表・大阪府知事は、附帯決議を無視するかのように、大阪都構想の住民投票と来春の統一地方選の「同日選を目指していくべきだ」と記者団の取材に答えています。国会軽視も甚だしいと思います。

国会嫌いの高市首相と国会軽視の維新のコンビは危険です。そもそも、維新肝いりの議員立法を成立させるために会期延長が必要だったのか疑問です。

再審制度見直しの刑訴法改正

冤罪被害者の早期救済のため、1948 年の刑事訴訟法制定以来初めてとなる再審制度の見直しが行われました。

しかし、自民党内の党内手続きでも異論のあった再審手続きの長期化の一因とされる検察官抗告の禁止は、十分な根拠があれば可能となり、それを決めるのは検察である以上、不十分な見直しに終わりました。

また、証拠開示も裁判所の判断に委ねられ、開示証拠の目的外使用は罰則付きで禁止されました。再審無罪となった袴田巖さんの姉は「(政府案では) 巖は助からず、処刑されていた」と言っています。

同じく再審無罪となった前川さんは「行かないという行動で、自分の抗議の意思を示すことにした」として、参院法務委員会の参考人質疑を欠席しました。

当事者たちが反対しているのでは、何のための法改正かわかりません。

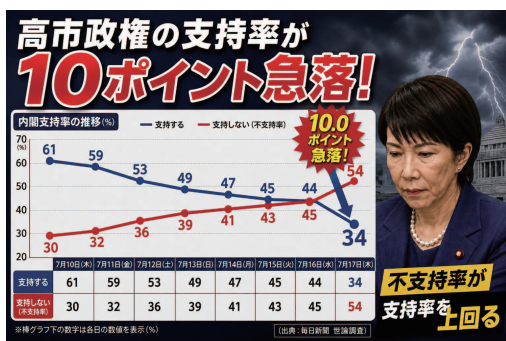
高市内閣の支持率急落

会期末を前にして、世論調査での高市内閣の支持率が急落しました。その要因については、いろいろな見方があると思いますが、私は、①物価高や円安への対策の遅れ、②中傷動画問題をめぐる国会対応、③皇室典範改正の強行の 3 点セットが主な要因ではないかと思います。

今、見てきた皇室典範改正も、国旗損壊罪も、副首都法案も、それぞれ重要なテーマではありますが、いずれも生活に直結しないテーマであり、国民の多くは「それ、今やる？」と思っているのではないのでしょうか。総選挙で高市・自民党を支持した国民が期待したのは、食料品消費税の減税をはじめとする物価高対策だったはずです。

国民の皆さんは、高市さんが自らの応援団である保守層や連立のパートナーである維新の方を向いていて、国民の方を見ていないことを敏感に感じ取っているのだと思います。

特別国会を振り返って、総選挙での惨敗と野党に受け皿がないことによる影響の大きさを痛感するとともに、権力への健全な監視と熟議の国会を取り戻すために、私も早く国政に復帰しなければならないと改めて胸に誓いました。



プロフィール

- ▶ 昭和 46 年生まれ、京大法卒
- ▶ 参議院事務局、在米大使館、馬淵澄夫代議士政策秘書

- ▶ 2009 年政権交代選挙で初当選以来、連続 6 期当選するも、2 月の総選挙にて惜敗
- ▶ 国会では、予算委員会、厚生労働委員会、党務では、選対委員長として活躍